

武蔵大学 社会学部 メディア社会学科 情報社会デザイン専攻

2027年
新設

データを読み解き 自ら新しい社会をデザインする

AIの急速な普及、VR環境の発展、そしてメディアの主役に躍り出たネット、超高度情報化社会の進展によって私たちの社会は再構築、再構成の時期を迎えています。現実社会と新たな私たちの生活空間となっていく仮想空間をどのようにデザインしていけばよいのでしょうか。本専攻では、正解がある学びではなく、自らが正解を作り出す学びを目指します。

学びのポイント

1 “現実社会”と“仮想空間”のはざま 私たちはどう生きていくのか

今私たちは“現実社会”だけを生きているとは限りません。インターネット、SNS、そしてVR空間。私たちは現実、仮想を問わず様々な社会と空間を横断的に生きていると言えます。そうした中、既存の社会に対する考え方、規範、法制度、倫理観など、あらゆる考え方のアップデートが必要です。社会学の考え方を基本に、社会そのものの見方、そして生き方について考えていきます。

2 キーワードは情報技術。 ネットワークとAIは私たちの社会をどう変えるのか

現在起こっている社会変革は、もっぱら情報技術の急速な発展によりもたらされています。2005年にスマホはありません。2015年にオンラインミーティングはほとんど使われていません。2020年に生成AIが広く使われる未来は夢物語でした。ネットワークの技術と、AIの急速な発展は私たちの社会そのものを変えています。新しい技術を使ってどんな社会をデザインする必要があるのか。変化を追うのではなく、変化をデザインするために、徹底的に最新の技術と社会のかかわりについて学んでいきます。

3 手に入れるべきは、データ分析の技法、 プログラミング能力、そして社会を変える力

自ら社会をデザインしようと思えば、そのための力が必要です。現代社会では、それはデータ分析の技法、そしてプログラミング能力です。自分の知りたいことを知るにはどんなデータを集める必要があるのか、集めたデータから知見を得るにはどんな分析手法があるのか、そしてその分析作業を行うためにどのようなプログラミング能力が必要か。実際に手を動かして自分の物にしていきます。

4 年間のゼミのステップ

■ 4年間のゼミステップ

▶1年次	▶2年次	▶3年次	▶4年次
春学期：基礎ゼミ1 秋学期：基礎ゼミ2	春学期：方法論ゼミ1 秋学期：方法論ゼミ2	春学期：専門ゼミ1 秋学期：専門ゼミ2	春学期：卒業研究ゼミ1 秋学期：卒業研究ゼミ2
文献の選び方からレポート作成、ディスカッションの仕方や各種データの分析方法など、情報社会を学ぶ基礎をつくります。	社会調査やデータ分析、プログラミングの方法に加え、Webサイトの制作、企業との連携等、情報社会の実態を現場感覚で学びます。	卒業研究に向け、自分のテーマを決めることを意識しながら、文献を講読し、グループや個人でプレ研究に挑みます。	3年間で学んださまざまな知識と技術を土台にさらに高度なレベルの研究を行い、4年間の成果を卒業論文・卒業制作としてまとめ上げます。

カリキュラム&授業紹介

					授業紹介
専門科目	ゼミ科目	基礎ゼミ	方法論ゼミ	専門ゼミ	卒業研究ゼミ
	理論科目	社会学原論 メディア社会学	知とデータ 情報社会デザイン論		
	方法科目	コンピューティング基礎 プログラミング基礎 社会学のための基礎数学 AI・データサイエンス基礎 社会調査方法	コンピューティング応用 プログラミング応用 データエンジニアリング データビジュアライゼーション テキストマイニング AIプログラミング 社会調査法 社会統計学 質的社会調査法 多変量解析	AI・データサイエンス実践 AI・データサイエンス応用 社会調査実習 ビッグデータ解析法	
	展開科目	4科目(8単位)まで 展開科目を履修可能	<計算社会科学・ネットワーク社会論系> ソーシャルネットワーク分析、公衆衛生とデータサイエンス、メディア分析の計算社会科学、数理・計量社会学、少子高齢化社会のデータ分析 <メディア分析・デジタル消費社会論系> 情報社会の認知科学、デジタル消費社会論、データジャーナリズム論、スポーツとデータサイエンス <先端技術・コンテンツ社会学系> 仮想空間文化論、デジタルトランスフォーメーション論、AIコンテンツ論、AI・ロボット社会と情報法制 <公共政策・ソーシャルデザイン系> ソーシャルデザイン論、科学技術社会論、テクノロジーとダイバーシティ、オープンデータの利活用		Introductory Sociology 社会学の主要な理論や概念、社会学のさまざまなテーマ(格差、ジェンダー、教育、グローバル化等)を、英語で学びます。社会学的なものの見方を身につけることにより、社会の「常識」を疑い、現代社会のさまざまな課題を多様な視点から考察できるようになります。 AI・データサイエンス 応用 (※:データサイエンス応用) この授業では、企業から提供を受けた消費者調査データを使い、実践的な分析力を養います。通常の社会調査データにくらべて、変数の数、ケース数ともに大規模なデータを用います。 ※授業紹介は2024年度の実績です。2027年度以降は変更になることがあります。

情報社会デザイン専攻に特徴的な授業を記載しているため、全ての授業を網羅しているわけではありません(授業名の後の数字も省略あり)。

■企業との連携■

さまざまな企業との連携を行っているため、実践的に学ぶことができます。企業から提供されたデータを活用し、リアルマーケットの仮説検証・分析やデータマーケティングを体験することで、将来のキャリアイメージを形成できます。

将来像・就職について

どこで働いても、何を仕事にしても、
データはあなたの力になる

何かになりたいたいからこのスキルを身につけるという考え方は、既存の社会の枠組みに自分を当てはめるものです。新しい社会の価値を生み出す側の人にはなれません。自分のスキルで会社を組織を社会を変える、そういう人材を育成します。

あなたの力はあらゆる業界が必要とするでしょう。

情報通信業	単にプログラミングを行うのではなく、ソリューションに必要なデータがどこにあるかを指摘し、そのデータを分析し、実際のプログラムに実装できる
マスコミ業	データジャーナリズムに基づき、様々な情報、事実をエビデンスとして蓄積し、膨大な定量・定性データにもとづいた根拠のある報道ができる
公務員	EBPM(Evidence Based Policy Making)に基づき、政治家の感覚的な政策形成の弱点を補い、データと根拠に基づいた政策立案と目標管理体系の構築ができる
小売業	膨大なソーシャルメディアのデータから、何故その商品が売れているのか、顧客はどこに価値を見出しているのかを分析し、次の販売戦略に活かすことができる
製造業	製造設備の稼働データ、不良率、設備故障の状況といった眠れるデータを俯瞰的に見た上で、当該製品の市場におけるポジショニングと需要動向を分析し、最適な製造管理ができる
サービス業	そのサービスが受け入れられた理由は何か、顧客は何に満足したのか、そうしたデータを自ら作り出す能力を持ち、なおかつ次のサービス開発に必要なデータ分析まで一気通貫に行うことができる



▼情報社会デザイン専攻の前身であるGDS(グローバル・データサイエンス)コースの就職実績を一部紹介します。

- GDS卒業生の就職実績**
- インターテクノスフィア
 - 京セラ
 - サイバー・コミュニケーションズ(総合職)
 - ※現: CARTA COMMUNICATIONS
 - 日本テラデータ
 - 野村證券
 - BIPROGY
 - 富士通ソフトウェアテクノロジーズ
 - ※現: 富士通 (SE)
 - 農林水産省 統計部(国家公務員一般職) など